

編輯室の内外

政界は混亂し遂に内閣交迭に遭遇し其成行を想像しながら筆を呵して茲に二月號を刊行し得た、素より豫定の期日に遅ることは絶対に避くるの決心と努力とをもつものであるが記事の内容に就いては各方面に満足と與へ大方の期待に辜負せざらんことを期して居ると思ふ儘にならぬ恨がある、もつと興味津津たる雑誌とせよ時代は變轉するから、技術の研究専門雑誌でない限り内容を廣汎に技術も高級でなく平易簡明にしてはどうかと注意を寄する方があるかと思へば技術者を啓導する爲めには技術方面に力を盡すべきであると思示さるるもある編輯者としては實に以て感謝に堪えぬ、斯くも本誌の爲めに後援と同情とを惜まれない方々の多きことに依りて勇氣づけられ獎勵せられたる、Y、M、氏は「道路の改良」紙上池本泰兒氏の「アフガニスタン通信」は面白く拜見して居ます、面白くと言ふよりは氏の努力の程が思ひやられてなりませぬ、人一倍の苦心は未見の筆者だけれど深く敬意を表して居ります、只管御成功を祈つてやみませぬ、——雑誌編輯の御苦心は逐年良いものとなつて行くのでわかります再び愛に敬意を表します。」と申されて來ました。編者は脊に冷汗を覺ゆる次第である。

全國總務部長會議が一月十八日內務省會議室に於て開催されて地方税制、財政の改革の不徹底の是正、二・二六事件の善後處

置に關しての急進、保守の兩極端を排すること、人權蹂躪、官僚獨善の野驛を他山の石として取扱ふことの外吏道刷新、官紀肅正の強調を内相より訓示せられたと傳へらるる、何れも現下の重要問題であるが就中吏道、官紀の二問題は行政機構改革以上の大問題として內務省のみでなく全體的に考究し熟慮し其の改善策を樹立せねばならぬものである。

東京市電車事業は行詰り事業のモデルである、知らぬ顔の市民は別として市電局長後藤氏も捨ててはおけず市電更生策私案なるものを公にしたが、鐵道省側の一部では適當なる一案として後藤局長の英斷を禮讃し共鳴の聲を高々とあげて居るが市會議員職員、従業員側からは猛烈な反對が叫ばれても居る、英斷に依る案は必しも適當第一案とも斷ぜられないが反對側の批判はどうか或一部では市電行詰りの解決から見ても將又帝都交通混亂の統制から見ては地下鐵と青バスと市電との共同經營でも一資本案をして帝都の交通界に君臨せしむるの效果を視るに過ぎない一兒戲案だと一笑するものもある世はさまざまなるかなの感を餘儀せらるるが直接其局に當る者として其の確信する所を公案として提出し廣く市民の聲を聞かれては如何。

准戰時代、超非常時局だ、國防の充實だ無條約時代の出現だ、建艦の競争だ、赤字公債の激増だ、市町村の財政は政府で賄ふだ、未曾有の豫算膨脹だ夫れで國民負擔の

輕減だといふ袖は振れないと頑張た高橋翁は遠く神つ國に旅行された今日中々巧妙な財政政策が傳へらるる時勢となつた、處が醬油が二割砂糖が二割酒が二割タバコが一分弱被服が二割養蠶用炭が二割増價でマツチ油類菓子ゴム靴、下駄其他の日用品も暴騰した、農民に對し平均六十五圓を四十圓に減税した代りに生活費を六十圓増額することとせられた。夫れで税は一、二割増徴せられても物價が三割以上も高かまらぬ政治を行つてもらひたいと叫ぶ農民があると聞く。鐵材の暴騰は一部商人のおもわくに出たかも知れぬが、生活日用品の騰價はそうではあるまい。民一人にても其所得を割ららむるは眞の政治でない、漢學先生から教へられたのは昔時の支那の事かと思つて居つたが、今日でも適切な教訓であるか。(洗)

定價一部 五十錢
一ヶ年分 金六圓

發行所 東京市麴町區外櫻田町一番地內務省内
社團 道路改良會
法人 電話銀座(分)四二七

東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
發行兼 小島 效
編輯者

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
常磐印刷所
印刷者 奈良直一